

朝夷巡嶋記

第三編

卷二

春



庫	103
	80
	169
架	6
番	108
冊	40

13
3093
12



朝夷巡嶋記全傳第三編卷之二

東都 曲亭主人編輯

中輯第廿二

友よ引る小松の宿  
途小吻く轍の江鮎

吉田屋

吉田屋

朝夷三郎義秀ハ江三廣光を伴ひつ。義邦の迹を慕ふ。加賀の小松と  
あつる當ふのそとにこれハ廣光ハ曩ハ八嶋室平が野兵ホと柱ト是左の股ハ  
薄傷を負つ。させろ疾風のあざれハ義秀ハ告さけし信濃路ハ出ハ  
より漸く小腫痛を痛ましく歩の運び自由あつ。あつる顔ハ焦燥の亦  
さるありけり。義秀ハこのとれハ廣光ハ金瘡を。あつる知りて敬馬死馬愛ハ  
かくてハのゆく義邦ハ追著ま。とちりあつ。有敷糸ハ捨てハま。は。或  
勤ハ或ハ激ハ。技掖ハ。中。行ハ思ハの外ハ宿ハをか。移ハ。小松の御まで。是れ

昭和九年七月三日 晴末

とも佐味空内八謙倉小召使まて今この里を去るも義邦も亦つりて  
 後まて人こそ其処へ俟て死なれども井平ハもつづ心利するのあり  
 里は旅寝しと俟たりやとつひく二人道次つりぬくまのるを  
 相譚ふ義秀ハ去歳の九月この地は遊歴まてけさ六葉内八粗知ま  
 且くさうは逗留しと冠者の旅宿を尋んとく里盡れあり客店は宿と  
 やが廣光が金瘡は膏藥を打せりて西三日保養させ義秀ハひり  
 毎日小街頭に出く彼此を徘徊し彼人々を索るも義邦由井平由  
 面影似する人ふどもは遭つてその次の日申明く旅宿をくち出り  
 里の圮橋をうち渡りて申明亭の邊を過る目今新に掛けたる  
 あり高牌の下小人の骨相書二四枚貼たるを里の老弱路ゆく人  
 かんとく其処は集合る肩を比べ肘を連ゆと蟻の甘ふ附は似たり

義秀ハ古又の形勢さるるのありふあはれ衆人の後方より  
 これをみる小この骨相書ハ別人たふと義邦主後と井平とさるる  
 写し出り罪科の趣を記しはち搦捕し進みせば如此この賞禄とさ  
 せん在処を知るの訴稟さる同類ありとも方の咎を宥免てこれゆ賞  
 禄を賜ふと鮮やふ書さりける原來さる人ありけりともさるる騒ぐ氣  
 ちあてさるるぬさるめと立退死る足早小旅宿は還りて廣光も同様  
 ここの夏の際を密結ハ廣光ゆきりち教馬死るる月印るる患るるに  
 冠者ハ何知る存在せりやんあろもともあはれ限りあり加以朝夷ぬ和君  
 さふさあわが臍を噛とも及ひざり某をばりち捨置と疾脱去り  
 といふ義秀ゆきり氣さるるそま謂まぬ口誼あり和殿が金瘡の  
 愈も進退不便ありはとさるるち捨て走るるふ足利もて矢石と死して

いづれ和殿を救ふべし勇士八元を喪ふと我々忘むことなき命を義に  
よめて鳩もよう軽んずべし。今更驚くことなきとて自ら激せし廣光感  
涙を拭ひあせむかくすであらう我々のがさうのやみせふ君が仁義とさ  
ぬふ似たり然れども共侶あまはまを人へ宛て危しめせまると當  
惑の小頭を霎時傾き義秀ハ死せり。我々解後方をいへりて  
長談ハ憚りあり。所詮和殿を技抜く越中婦員の山岩神ある稻向  
判五が宿所より退くべし。是れおのゝ温子井平ハ思慮あるの之佐味が  
この地はまをむとゆふが討者ハ俱く虚くとすうら小豆苗まぐもあせ  
何とあれがその夜より和殿ハ一人留りて領主の討兵を引受たり。あま  
その初より和殿の存亡ハ定まり。又義秀が和殿を救ふ共ふ迹より來  
るとあまねば久しくこの地は俟べむと備彼景二郎を傳遣せし。和殿の

内室は良井との途に討者より追著しつゝ口状を必傳入然あまの  
吉見殿との小松へ趣き井平ハ僉共侶に稻向許落し吾們を  
俟あやあまんは亦知るべきとそれれくもかれ追捕の沙汰嚴重あれハ  
今ハ霎時も留りぬ。只義秀ふるも任し。とて出あへといそがせし廣光この  
議は後ひく苦痛を忍び行く行装とその同義秀いあふ。或る時  
取らせ同様の病著も大なる瘡にぬ聖とて左に右にむき死せし  
まは今より起とも四五里ハあべ。復たを求めといひけり。まや外面へ立  
出れハ廣光も後より跟れり。疼痛を忍びくり共ハ板敷小尻をうけり  
草鞋を穿れ行李を背負ひ坐あぐりて歩行はあまの門邊にこまを  
送りし後の宿りを契りけり。かくて義秀ハ廣光を勸りて越路を授け赴  
くハ廣光ハ人目なかり旅宿を出る時あまを馬歩ハ運びり。こまより小堀に

疾ひあまハ一町ゆれてハ五とどまり。二町ゆれてハ息を吻れいと。
 凡のまじり人目あまハ養秀ハ肩ひゆえあうむじふ不掖まきこかく
 ちく小松の郷を出離ま一里あまのりあまよけま八日ハちや未の下刻ふちぬ
 け処數十町左右ハ芝生あり松原あり。廣光ハあふ到く苦痛腸を断
 可あまハ一步も運ぐと叶む松の株ハ尻をうけ背を幹ハ推當眼と
 同く顔の色さそと凡ハ養秀ハ遠く懐ある用意の薬をとり出
 い遍とあく是を勧めてさあふ勲まハ廣光用く眼賊時朝夷主
 朝夷主よりあれたかのハ羈不取りく。さそあハ焦燥あふ口いちあふ
 まりあふそもかくてもこの痛まハ露命あふ小竭ぬ。射者の先途
 あふさるるの死後の恨あまでも歎れくその甲斐あふ小もあふむ
 覺期あめくゆとい声さふ弱りけり。養秀こまを休あふ女くれあふ

和敷深く小あふまじりも曩ハ長途をまじりふ再傷をまじり
 命ハ恙やあふ死あふより人家ハ尚遠かり路ゆく人も稀あふ今宵の宿
 やど背負くあふ心せうと慰あふ。あふ背月をさうよふハ廣光頭とち
 掉てよりや里ハ遠くともあふ人あふ定めく。これよりあふ肩あふ
 必入ハ怪しめまじり禍其れ不起るべし。只ち捨て走りあふ疾ゆれま
 ちく小後へくもあふまじり養秀声を激く復くてもあふ死後養秀
 仗と死ハ兩人合體和敷が病ハ病ハ和敷が死あふ。死まも死べし。背
 負く人ハ怪しめまじり捕捕らうとあふそれやその命運あり。何を躊躇
 ことあふ肩あふまじり肩を取りく肩へ引被け立んと。廣光アア
 引放ちや。後あふかまじり不諫まじりをいそ推辞ん。いそ隨ふまじり
 息絶く堪く。水あふ只一口咽喉潤く。あふれといあふ養秀沈

吟し。負水ハ忌むものあれども。飲せしと命終るべし。それども  
 益あり。只今負する疾あり。わが薬とも。與人に。ゆるる。あつた。と。吐裏の  
 尋思。し。つら。越。う。ろ。ぬ。り。ま。ら。ふ。水。ハ。あ。け。ま。ど。も。田。井。を。索。務。く  
 汲。り。て。ま。ん。且。く。ま。お。俵。ま。へ。と。い。ひ。つ。腰。あ。る。瓢。を。搦。て。迫。ふ。ん。あ。る。山。田。の  
 裾。小。樋。の。口。あ。ん。と。む。り。点。足。不。信。し。く。走。ま。け。り。廣。光。霎。時。目。送。り。て  
 流。る。涙。を。揮。拂。ひ。日。来。ハ。猛。死。壯。士。が。心。の。ど。け。く。技。掖。死。背。負。ん。と。ま。か。く  
 真。成。不。勤。誠。ハ。親。族。で。も。不。有。る。死。好。意。縁。ハ。伴。侶。世。ハ。惻。隱。と。彼  
 諺。も。今。ぞ。ま。つ。れ。あ。た。め。ハ。命。毛。さ。ま。づ。と。く。こ。ま。故。不。彼。人。さ。不。支。又  
 遭。六。之。れ。彼。人。を。害。ま。る。ん。か。く。義。と。り。ひ。信。と。ら。ん。や。疾。ハ。灸。所。を。外。れ  
 じ。ま。ど。も。破。傷。風。と。あ。り。う。ハ。ど。も。か。つ。て。も。生。ぞ。う。縦。要。時。存。命。と。も。  
 歸。負。ま。す。で。い。で。う。ち。ま。づ。べ。た。只。こ。の。終。不。自。殺。し。く。彼。人。の。為。主。君。の。為。よ

策。を。送。ま。す。一。叶。ま。あ。り。と。む。り。ま。ら。ち。氣。成。激。し。て。も。弱。り。ゆ。け。肘。と。搦。り。て  
 乃。ち。小。腰。あ。る。黒。斗。を。抜。出。懐。紙。を。引。伸。一。墨。ハ。深。く。も。首。の。戦。へ。く  
 筆。の。運。び。ま。定。め。あ。た。世。の。ま。ま。と。ま。ひ。送。ま。す。一。枚。の。か。ま。あ。ぬ。月。の  
 あ。つ。れ。現。今。以。限。り。の。命。毛。と。ま。ら。ぬ。妻。も。子。も。俵。ん。忠。義。小。家。と。忘。れ  
 の。瓜。何。歎。く。死。愚。痴。む。り。た。小。三。二。ハ。く。大。た。く。ま。り。君。は。仕。て。な。た。の。志。を。嗣。ふ。や。  
 多。ひ。子。あ。く。朝。夷。生。の。舅。の。家。よ。才。を。ま。ま。と。ま。づ。と。も。か。つ。て。在。ぬ。へ。一。小  
 かる。ハ。主。君。の。何。の。里。よ。ま。ら。ま。ら。と。も。廣。光。が。亡。魂。ハ。影。不。立。才。小。添。て  
 け。の。り。守。り。ま。ま。う。ん。か。く。ま。も。朝。夷。生。日。来。の。女。抱。受。か。う。こ。の。世。ハ  
 一。六。報。ひ。ろ。う。名。残。惜。や。と。い。ふ。え。ふ。の。ら。ぐ。心。あ。り。あ。る。胸。不。字。の。あ。ら。う  
 救。う。書。損。る。紙。引。列。表。て。筆。を。と。ま。め。て。讀。む。一。通。追。捕。嚴。重。か。ら。い。り  
 毛。邦。義。秀。井。平。ホ。ハ。云。云。の。河。原。も。く。共。侶。入。水。し。と。い。ぬ。其。深。瘡。と



金瘡<sup>きんそう</sup>の膏<sup>こう</sup>  
 みく廣光<sup>ひろみつ</sup>  
 策<sup>さく</sup>を送<sup>おく</sup>る  
 んとす



負かへん主君の最期は後まり進退あり小穴へく自殺せらるの也年  
月日江三二廣光とありる中の小流久しこの一通を送りかぶ追捕の  
沙汰も是より止んぶ主君も彼人も後中とくあるとありん主  
君が憑む彼人へこれ只末期の寸志んどりむど時や移り久しとて  
そこまつて坐をとらくいそとはなまと衰へ腕小重丸腰刀韃抜捨く  
との直へ背で松は倚りけり南を舟舟陀仏と唱つて肚小突立んとはる  
粥ふやの等志をとりと義秀八樹蔭より衝と寄く矢庭小腕と楚と  
會和敬重病身小逼まハ命を捨り主君を救ひ同盟のめりと人と  
後中もくせんと謀りし送書ハこの松の背小立り日れとや讀ぬ實小  
忠義ハよととあれど和敬一人死まぶとく自餘の死骸をんひるふり  
移入水といわくも實夏とせんや死し主君の為小ゆあむむ仇は愈

議の心から義送人ハ愚あとむと且この刃を放めと理り迫て諫れた  
廣光とどの氣をあへこの期及びく千萬句も同答ハ益さめと  
る後放て死したる禁ずむハ情がと怨はまぶ義秀ハ變  
あらじく殺さぬ死とるふ及びと和敬ハまり亦話らりその譯  
ゆんと刃を奪めく韃小納めく引提り走り歩みを抗てあいく  
とさ招け先小進こ行客兩人後より一挺の行轎と扛り喘息走り  
あるこの行客ハ列人ありむ岩神あり二三之藁二郎共侶小彼根ゆ堂  
平小復藥を舂りとあらふ集會り藁二郎ハいちや廣光といて  
声をかけ三三主ここ何れくあらむと實まめる心地のいふといふと訊  
きと廣光といかうなくこれいくとなるり小雲時苦痛を忘れてふ  
あらむ再會の救び氣をあらむ頭まつと當下義秀ハ廣光ハ一三を



指し示し江生六郎を識るべし。こま不是こと恩人その名を尋るるに豫て申ひしに  
 庄司賤の一三入と告まは廣光ももく致ひ膝折敷くを二六禁めて馳て  
 對面を蒙二郎も傷よをり三二ぬハ僕さ入よこの処へ來つることを不審  
 ぢひより僕ハその夜より朝夷ぬの指揮小後ひ内室水子自ま俱  
 ちぬせ夜を日小継く急いふ幾日あつて越中あつ岩神の里稻  
 向ぬの宿所よいおれて一二敷小對面ハ竊小縁由を告く朝夷ぬの  
 消息をいひまじり隨小遞与ふけしハ躬く閑室ハ招入くまあつハ夫婦  
 出迎く朝夷ぬの安不次同浅良井殿ふり成ゆ小三二夜を慰くは  
 その敷待等閑あつるを友鶴ぬも對面く朝夷殿ハ異へおれよハ成  
 ちろゆさせめりまじりまあこの母子を奥ハ潜せ僕小酒食と賜て  
 草鞋錢を牽れりりかて次の日僕ハかりまんと思ひりよその曉がこ

しり月痛く天ハ明とまじり枕あつるを朝夷ハ親を刀野小替せ復や  
 故主を寃家のぬ小謀れりり朽をり親苗四郎が墓を親族小  
 うち任せ小児を背負その母寺を技掖々幾十里の長途とまじり  
 此彼の心勞ふりり之見より毎日小あつハ夫婦一三ぬの貞成小  
 人さハ冊々看病せめハ醫治療等閑あつるまじりハ僕ハ四日むらり  
 胸痛ハハ愈ふれと告まハ一三さまハ又夫の日よりハ殿富程の下知と  
 ちり吉見主後朝夷ホその後まじり四人骨相書をめりり素直ハ  
 罪科の越知此ことなや岩神へ申徇らまじりこれより圖宅一層の  
 憂苦をやりりまのびくふとやえんかやあふれと主人ハ夫婦友黨との  
 僕さ入額を合せ浅良井ぬも相譚ぬも先づぬの涙のそ往方も  
 まらぬぬ達と業しりり智恵ハ出せりり聊子かをぬり

冠者殿ハ雪の間小井平と和郎を招く加賀の小松の佐味空  
 内を心めてふや出ぬひそくこまき外小松は在りて浅良井ど  
 告る幾聞けし現さゆあらん佐味ハ小松は在りて浅良井ど  
 知らざり加北へ赴けりあつたをいひてさへ死ハ二三人  
 此方の三郎共侶は又唯冠者の迹を追く加賀へ赴くるもあべ  
 かまふ僅小往方をあつたかりハいぞあつた四人小松は落合てあつた向て  
 才まはりし途あり夏ある後悔其れは立たさうのそで竊小迎と  
 と商量既は一決してこまきあべと早まら冠者主後温子と女らん  
 影ハ絶く認る朝夷生小逢と彼主後ハ先遣ハ何をりてよ  
 せんこれハ又不便のふせむと躊躇と茂二郎ハ共侶小あ  
 といふはちうづつたさう當下又愚按あり吉見殿ハ面色白く下際目ざら

刀袷とぞゆりこれを六儀小隠さる人目の園成越さか  
 心なまぬ根ぬ莖平さ小ゆり骨夜をさうと途をさけ小松の目まら  
 山田の裾を過ると冠朝夷とが樋門あり水とさる小端ありあひぬその  
 と死の歎と今あは胸ハ踊らえて立あつたを祝しと  
 とびひ使へん茂二郎冠者の往方ハ志まふとこまきの金瘡小患  
 つらと彼知あり松原小憩ひくをりこれちづまのて各位小逢つる  
 告へ死よ跡よりあつたといひあは松原さうとまはる朝夷との足  
 勝まむといふ後れと声低くとおさる茂二郎又備より江上よ  
 あれをさる茂二郎小誠心あまとも吉見譜弟の家臣小あつた相  
 向夫婦と二三と茂二郎秀が縁者入る所も猶冠者の為よ心を用ると  
 斯のど和歌と日暮友あり臣ハ日来ハ心を竭くも竟小冠者小遭む

ちくちくひらひらあはれ人の助け成るつる佛の不可思議儒の野云天を以て疾この  
 復小乗程り岩神へ赴る。療養生を志す。五口和殿小成るり。亦復冠者の往方を索ん。とくと勸る。廣光感嘆慚愧。涙を禁め  
 難くもどかど太息とつれ。孝みの門に不忠あり。義士の族は薄情を  
 再び必死を脱す。皆自見和君が賜。廣光がこのまひを半冠者小分  
 今さう物を思ふや人の情小よ。主君と迎へれぬ  
 解せ。轎子小吾侍乗人ハ物体あり。いせも果さ。その思慮之  
 和殿が復小乗らむとて冠者がさへ。小命を全して。後  
 日をひか。真の忠信杵子を定規ゆ。おろし。罵激。二と葉二郎小  
 目注。西人齊一廣光が。腰を抱え揚。さうさう  
 復興小扛乗せ。當下根々。莖平ハ息杖。杖横た。義あがほ。

小居。膝。跪。死。哀の再会を祝せ。義秀これを勞ひて廣光が  
 人を委ね。葉二郎が耳を引く。云々と密語。葉二郎。根々。小ハ意  
 味成。復興と擡出。その方ハ後方小引添。舊路。越え。二六  
 そのまろ。残。義秀。對。松の株。小尻。掛。阿  
 爺ハ廣光が氣色を。果重病。焦燥。腹を切。つ。吾侍  
 折。更。阿爺。助。越。死。禁。女  
 才。定。重。金。瘡。只。抱。憑。其。り  
 別。邦。井。平。小。環。會。廣。光。夫。婦。が。休。人。相。向。夫。婦。及  
 鶴。ホ。よ。う。ろ。ろ。と。い。ひ。け。立。ん。と。一。三。眺。推。め。  
 こそ。も。く。人。吾。侍。さ。う。さ。う。誰。が。を。と。お。ひ。ひ。ふ  
 件。の。沙。汰。を。や。り。相。向。殿。の。お。ち。の。内。室。の。周。章。悲。歎。友。鶴。の。平。小。由

ありし腹も然當て。さらば日小なり。目小なり。間も遠く。是首の  
 隅彼処の隅。位なり。まを親病む二親を。鬱悒胸を。是の  
 和殿。環會。おろか。んと。思ふ。を。鬼毛可の心。あて。成。よ。不。昼夜。長途。成  
 走りて。さ。つ。で。逢。あ。う。放。く。何。処。へ。遣。さ。る。べ。い。ち。の。か。が。虚。言。飲。実。る。飲。ハ  
 こと。を。刀。々。妻。子。の。歎。死。を。以。ひ。汲。く。且。岩。神。へ。か。り。多。還。り。多。と。練。か。へ。遠。く  
 懐。と。搔。撈。や。ろ。く。友。勢。が。書。封。を。ど。う。出。さ。す。小。遞。せ。る。義。未。封。皮。を。割。披。死。讀  
 果。く。幾。條。あ。ら。う。列。長。く。袂。小。納。め。女。子。い。ま。ら。し。ま。あ。り。く。心。披。死。め。あ。れ。ば  
 か。の。あ。え。死。る。あ。ら。う。勇。士。の。妻。よ。不。似。げ。あ。死。所。行。と。假。涼。の。別。を。惜。む。冤。屈。小  
 驚。死。厭。鬼。く。夫。を。膝。引。著。お。く。と。天。の。作。せ。る。福。が。福。と。知。る。死。や。阿。翁。と。く  
 思。う。く。死。多。う。これ。友。鶴。成。取。り。ぬ。前。小。彼。友。連。の。る。を。い。じ。り。そ。の。あ。る。妻。子。の  
 顔。を。刀。ん。と。危。窮。の。友。を。憐。れ。初。より。友。垣。を。結。は。ぬ。小。ま。く。よ。縁。と。は。あ。る

ま。と。と。義。小。勇。む。滅。を。感。じ。く。一。二。ハ。又。の。り。ゆ。あ。り。り。且。く。弄。つ。と。る。  
 松。多。を。捨。て。て。死。ら。ち。拂。ひ。さ。ら。と。も。彼。友。連。の。在。処。を。知。り。く。小。あ。ら。う。終。つ。  
 一。月。小。あ。ら。う。死。歎。二。年。三。年。ゆ。く。逢。さ。る。べ。い。歎。あ。ら。と。逢。さ。る。と。不。定。さ。う。や  
 一。つ。び。岩。神。へ。還。さ。る。更。小。旅。さ。る。と。今。ゆ。て。還。死。小。あ。ら。と。路。次。小。面。を。曝。さ。る。  
 隠。さ。る。時。を。待。て。さ。し。け。れ。お。ん。才。是。小。濟。力。あ。り。と。も。旅。よ。あ。ら。ん。ハ。い。と。危。し。枉。く  
 男。忠。孝。よ。隨。ひ。の。久。と。復。諫。さ。る。其。元。介。と。笑。さ。る。且。ま。の。る。小。女。と。さ。る。幾。十。騎。よ  
 用。さ。る。と。も。入。境。を。ゆ。り。易。う。倘。運。竭。あ。ら。小。敵。小。大。刀。折。さ。る。生。拘。ま。入。  
 かく。謙。倉。小。牽。さ。る。と。も。これ。お。の。づ。く。處。分。あり。命。小。恙。さ。ら。べ。一。彼。友。連。我。妻。あ。ら  
 二。年。あ。ら。う。遭。さ。る。三。歳。が。程。小。岩。神。へ。還。さ。る。こ。の。ゆ。を。稱。向。氏。と。さ。る。終。つ。  
 傳。へ。く。と。も。ゆ。り。阿。翁。小。あ。ら。い。ぬ。と。心。か。き。お。け。さ。る。口。い。と。惜。れ。小。去。歳。の  
 その。月。浅。良。井。よ。領。さ。る。母。の。像。見。の。舊。衣。と。その。夜。さ。り。彼。女。房。い。と。眺。く。と。さ。る。

取忘れぬ疑ひあり。と。バ。二。三。うち。微笑。笑。吾。侑。も。認。り。母。也。が。織。の。卑。  
 衣被。う。た。ふ。あ。え。ん。ま。ん。そ。と。あ。れ。バ。今。も。な。あ。り。和。主。が。身。中。の。か。え。ん。じ。  
 と。い。う。く。領。け。一。衣。あ。ま。い。の。こ。の。こ。の。宵。腰。又。著。て。吉。見。の。宿。野。を。出。た。と。  
 浅。良。井。と。い。う。物。と。友。鶴。と。い。う。處。と。一。紙。吾。侑。も。其。妙。小。居。あ。り。て。和。主。が。  
 孝。心。彼。婦。人。の。篤。実。律。義。又。我。折。り。今。も。な。あ。り。と。説。示。せ。ぬ。義。秀。咲。て。  
 頭。を。拵。さ。侍。忙。し。折。あ。ふ。ふ。り。と。衣。も。う。が。ぬ。ふ。二。あ。れ。室。と。い。う。一。紙。  
 う。ち。に。ま。も。せ。と。推。し。ま。す。友。鶴。と。い。う。處。と。一。流。石。ハ。武。士。の。妻。あ。り。け。り。  
 人。が。ぬ。ふ。信。あ。り。と。い。ふ。亦。信。あ。り。と。い。ふ。友。鶴。ハ。こ。の。も。愧。て。日。が。人。を。お。歎。  
 く。へ。う。と。只。彼。衣。を。実。の。母。と。も。義。秀。と。も。見。て。慰。め。よ。と。か。ま。く。由。侍。て。を。  
 今。宵。ハ。あ。る。宿。ア。も。く。な。果。相。譚。久。と。あ。り。と。も。又。義。秀。が。面。を。見。て。こ。  
 ト。ハ。一。旦。の。ひ。つ。と。と。不。慚。て。異。あ。る。と。い。ふ。成。由。せん。軟。さ。る。ふ。と。く。葉。二。郎。の。あ。

松原のあまゆ。和敷を等と密語。と。渠。本。を。先。遣。り。今。ハ。こ。を。待。  
 日。が。う。ん。日。影。も。既。傾。た。ぬ。疾。去。り。と。い。う。と。一。包。の。金。と。り。出。し。こ。の。緊。要。の。料。ふ。と。く。指。  
 歎。ら。肚。小。巻。さ。行。囊。より。一。包。の。金。と。り。出。し。こ。の。緊。要。の。料。ふ。と。く。指。  
 向。ぬ。の。處。と。され。切。く。こ。の。受。納。と。路。費。お。せ。し。本。望。あ。り。と。  
 几。人。の。不。簡。ハ。勇。士。の。あ。ら。と。表。裏。中。で。ま。ぐ。及。ぬ。と。の。と。あ。れ。バ。立。  
 え。り。と。怒。り。吐。ら。と。も。岩。神。へ。付。ん。と。い。う。ぬ。え。と。い。う。と。義。納。め。ぬ。  
 と。真。成。小。勸。き。ハ。義。秀。取。り。と。戴。死。こ。の。高。金。ハ。分。小。過。と。り。こ。の。九。男。の。  
 好。意。こ。れ。え。推。辞。く。と。路。費。お。せ。し。と。懐。中。へ。楚。と。納。め。て。方。を。起。せ。バ。  
 一。二。亦。身。を。起。し。和。主。ハ。何。國。を。心。あ。て。小。彼。人。達。を。索。め。ぬ。と。い。う。と。く。  
 友。鶴。と。い。う。一。筆。あ。り。と。も。返。さ。ぬ。と。い。う。と。く。送。小。西。を。見。え。り。彼。井。平。が。  
 舊。里。ハ。近。江。の。又。賀。と。い。う。と。又。信。濃。由。氏。族。あ。る。と。い。う。と。く。必。冠。

者不勸。由ある里小留ア多し且江信二國を常く遭ふ亦復便宜小  
 任せんその先やそハ定めじ又友鶴へ返書のものハ不慮の證據とあるヲ  
 あり或ハ途ふより送し或ハ賊小掠らるるとかどはへうまどいあふるのハ口  
 づつ。阿爺よひひゆれ傳へくへくも患人のみ抱をそも憑むれ  
 その室ろふあつろゆり。誘ひとく五六町共侶小中、夕日影樹間を  
 漏る掩まろ名残ハ竭ぬ林原さふあつろ別まんとく義秀歩を駐  
 むま一三ハ町嶺小再會を契アる途横まりて中人を木かろこま目送る。  
 作者云先板第二編卷の四の二丁の左より。三丁の右小至て義秀のハ  
 浅良井小三小藁二郎を冊けく。越中婦負の岩神ある稻向が  
 宿所へとく落し遣せし或廣光小告る後小藁二郎を恨く引太  
 郎と考へつけり。彼引太郎とりみ者ハ第二編の端像も又えて藁

二郎が後身入る忘野の松原ゆと。その伯父苗四郎と共し時夏小孫  
 きりめあきハ恨くと誰も考へず。俗考のむつろあつ後ど列成る後  
 又出せし正一補ハ暇あつ。そがまふ小遺行り。因てまのあつとる  
 の。鄙語ゆり澄文の出入後まるとのあつらん歌

中輯第廿四  
 山寺乃古塔婆  
 駒形の老淫婦

吉見尉者義邦ハその夜より勝澤の松原ゆ。後陣小敵を禦んとく。  
 井平と立別西を望く走アる。わけどもく仇大遭ふ。そは伏兵のありん  
 うとく。足場を揚り。樹を借る。半响許立在む。小曉がく近死天の  
 色倏忽結陰く。颯と音り。風のやめく。驟雨盆を復か如く。樹  
 蔭のなまつ。さつと身ハ只濡は濡てり。さるあまど。井平ハ今

あは 雙言を 柱る 軟敷も せよとや。と 想像の 心む 天の 野于 玉の 暗れ かく 小  
 降そぐ。雨の 樹蔭を 出難う。かくて 雨と 待たぬ 雨歇雲の さらり 星  
 の 光りも 明ら 迎う。今や 井平が 敵の 困る 成り 来ぬ 移れ たり  
 けん。不便あり。かる せよ 共侶 小大 刀の 刃の 續く 只切 死小 死へ 死め ぬと  
 今ハ ても 時移 了ぬ 立之 所とも 甲斐 支や あり 井平 既小 かく の じ 廣光 也  
 今ハ かく 領主 の 討兵 を 柱々。搦ら せし 軟敷 せよ 軟二 小一 違へ へん ぬと  
 愁これ の 存命 誰と 誰 小艱 苦を 凌人 死へ 死時 小死 され 死さ ず  
 必や 恥辱 多し。腹を 切んと 主あ ぐ。刀の 鞘よ 成掛 けい 小これ  
 短慮 死ハ 易く 生ハ 難し。二 井平 八替 色一 とも 脱し とも  
 定う あり ぬ小 早く 死さ 亡後 小彼 小恨ら せぬ や せん。その 存亡 小さ ず  
 とう あり とも。既 断金 の 交 あり。朝夷 生 今 後 現 小加 北 小あり ん。や ぐ

この 人 を 訪て して とも かく も ぎん ぐれ と 曾小 向ひ 胸小 答ふ。被 衣と ぬ  
 よ せ 絞り。濡 便の 拾 笠 取 じ 下と。と 戴 北 國を 投て 赴 けり。公  
 は ぐ ぞ 哀れ あり。さ 程 小 義 邦ハ ゆく とい 幾 里 あり 天ハ 明 人の  
 往 還 入 鬱 悒 あり 又 小 再 度 の 追 兵 心 けり。回 道 上 へ 進 入  
 とも。路 あり 途 小 け 入 り。熟 ぬ 草 鞋 破 小 荊 棘 を 俟 足 小  
 血を 深め 長 衣 裳 裙ハ 褰 ても 拂 ぬ 草 葉 の 露 けり。式 小 六 倍 小  
 野 水 小 臨 小。面 影 の 窻 小 教 勇 死 式 小 死ハ 嗟 峨 青 巖 小 吻 死 燕  
 夫 牧 童 小 途 戎 回 朝ハ 林 鳥 と 共 小 出 夕 小 夕 の 棲 宿 小 悲 小 味ハ  
 郷 黨 の 上 小 在 今ハ 萬 里 の 客 小 日 小 歩 夜 小 宿 小 加  
 賀 園 小 松 の 郷 小 訪 へ 佐 味 竺 内 小 蹴 踏 を 新 將 軍 小  
 召 使 去 歲 の 春 謙 倉 へ あり とも。伊 小 義 邦 小 漕 舟 乃 汀 渚 小

撤ちかを失うしなふ。進退しんたい其その必かならず極たぎり。又またのふともせんせんか。竺内ちくないかかの如ごとく  
 あらふ。そよ吹風ふきかぜの依より。その此こゝ日ひも告つぎまふ去歲こぞのその月朝つきあさ夷生ひがしと  
 紹せうめせしを悔くしけ。彼人かひを尋たづねまふ。さくを吾侪われらを恨うらむけめ。この春  
 までの消息そふしのゆめえさりのこの故ゆゑあつらん。何なにとせん。とむるもふ。必かならずひ苦くる  
 る。立た在あら。そあつたふあつた。且かつ客店やくてんよその夜よをあつ。次のつぎ一日いちにちハ  
 逗と留りうし。ゆりつ。思おも惟ひた。井平いへいも廣ひろ先さきゆ。けのや。追おひも昔むかしこゝろ  
 或あるハ後あとを或あるハ又また搦捕なつとまふ疑うたがひか。よの小松こまつハ商賈しょうかよくいと熱鬧あつたは  
 里さとあれ。さる。知ち音いんのあまど。世よ代よ潜ひそかべ。死し知ちはあまど。曩むかしも義秀ぎしう  
 ト紹せう庵あま。陸奥りくおへとて去さ人と。それ。これ。勸すすめ。紹せうめ。佐さ味あじを憑たのむ  
 遣たし。考かんふ。竺内ちくないを。義秀ぎしうハよりして。又また更さら不ふ陸奥りくお。越こえらる  
 ぬ。あつ。恨うらむ。ハ投なげて。里さとの名なまふ。ゆめ。され。ハ。又また跡あとを慕ねがふ。納なめ。

考かんふとも得え盡つむ。五十四郡ごじゆうぐんのいと廣ひろれ。ゆゑ。竺内ちくないを。考かんふ。深會しみんさる  
 こと。ハある。さ。でも陸奥りくおハ大國たいこく。任にんが乱らんあり。との。世よ代よ潜ひそか。ゆ。と  
 便びん宜ぎあ。うん。直ち直ちハ彼地かひへ赴むくべ。と。さ。や。ハ。決きつ。あ。づ。を。据さて。奥おく  
 中な。道みちの程ほどを同どうむ。不ふ客店やくてんのあ。づ。が。ゆ。つ。あ。より。奥おく羽うへ。越こえらる。ハ。  
 いと。遙とほけた。旅たびあ。その途みち究きゆうめ。難なん知ちま。り。水行みづゆを。婿むこひ。ハ。  
 當國たうこく川がわ尻しつ湊みなと。ハ。奥おくへ。渡わたる。便びん船せんヨ。あ。づ。と。件けんの。港みなと口くち。ハ。六里むつり有あ  
 餘あまも。ひ。い。と。年とし弱じやくな。方かたさ。る。の。独ひとり行ゆよ。と。ら。は。巴ひか。わ。と。く。水行みづゆより。  
 赴むた。あ。と。勸すすめ。り。義邦ぎぱうつ。く。う。ち。ゆ。つ。む。う。文治ぶんぢの。さ。ゆ。め。さ。叙せ父ふ  
 九郎判官くわじ郎はんくわんが。さ。く。富樫とみがしの。國くに越こえて。陸奥りくおへ。赴むた。あ。ひ。との。ハ。途みちの。艱か難ん  
 又またの。蹟あとハ。人の。口くち碑いハ。傳つへ。く。ゆ。め。の。その。ハ。主しゆ後ご七人しちにんと。こ。ま。只ただ為なむ。と。あ。る。ふ。  
 水行みづゆあ。づ。ハ。叶かなつ。と。さ。ハ。途みち。石上いしのかみあ。づ。あ。ま。の。蹟あとを。も。こ。さ。息いきな。ふ。か。こ。





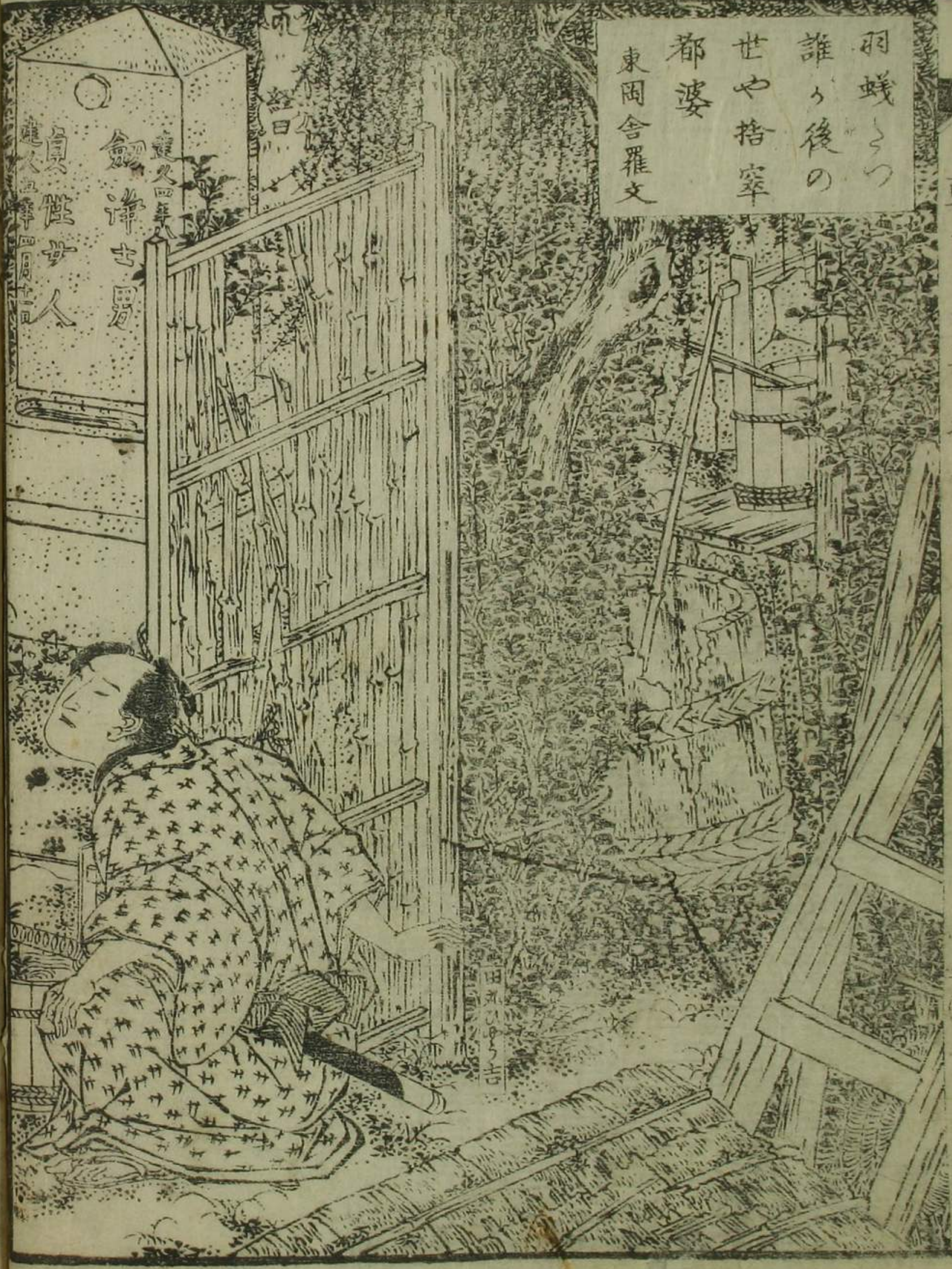


孔  
在  
迄  
之  
墓

西曆一千九百零九年七月廿九日  
即明治三十四年六月廿九日

明治三十四年二月

明治三十四年十一月



羽  
蟻  
の  
誰  
の  
後  
の  
世  
也  
指  
宰  
都  
婆  
東  
岡  
舎  
羅  
文

西曆一千九百零九年  
即明治三十四年  
貞世女人

貞世女人

尋常の造りなるのみならず、秀衡が世ざりし由緒あり、道場  
 ありけんと推量らる。日ハ暮んとく、道遠より、あつ小宿ありと云々と、壯  
 裏小尋思し、角門より進み入る。地内ハ廣く、本堂狭く、茅菅小  
 堂、堂の傍小玄圍めたる処あり。庫裏とわかれ、元処あり、昔の名残ハ  
 夏草の回小見えたる礎の、墓所の外亦一物あり。其邦ハ玄圍の、より  
 近く進みよけて、西ニ声呼門ども、誰と云ふの、あつ。法師ハ背門小  
 堂を左へ遠く入る小、跌上りあり、卵塔多し。豊登と云る土  
 饅頭離くる草小包まき、拂ぬ、昔よ花を、用く、月のあつ果ハ雅も  
 みる。これえたりと、観とまふ外の、哀も、月小入く、墓石小彫りあり、  
 人の名、氏一ツニツ、続む、後小、劔、浄士男と、写せし、右、建久四年八月  
 云々とあり。又、推あり、貞性女人と、写し、左、建久五年四月

十一日とあり、傷小あり、宰都波安あり、録せし、梵文ハ、體、低、減、と、ま  
 とも、梓氏治部丞、七回忌、追、福、拔、苦、与、樂、の、為、め、を、正、治、元、年、八、月、施  
 主、敬、白、と、大、書、せし、二十、六、个、字、ハ、鮮、よ、ん、え、か、り、。後、後、ま、つ、る、羽、織  
 鞆、宰、都、波、安、の、朽、理、ハ、跋、纏、了、。義、邦、ハ、こ、れ、を、見、く、あ、ろ、の、中、小、あ、り、  
 評、に、梓、治、部、丞、有、友、ハ、先、人、の、老、臣、あり、。當、初、橋、太、左、衛、門、尉、高、保  
 ホ、と、共、ニ、濱、の、宿、の、館、を、成、く、討、子、の、武、士、刀、野、備、杖、照、時、を、防、戦、ひ  
 尸、二、朝、の、兵、火、小、焼、く、。名、を、十、年、の、今、小、留、め、。忠、義、ハ、傳、へ、て、ま、れ、由  
 竹、の、あ、つ、あ、つ、ひ、ひ、も、あ、り、。この、陸、奥、の、果、み、く、渠、を、あ、つ、追、善、の、塔  
 婆、を、建、し、誰、あ、つ、ん、その、親、類、欽、恩、顧、の、者、欽、と、昔、の、人、の、恋、し、た、  
 同、く、あ、つ、墳、堂、惆、悵、と、く、立、在、し、。倍、処、小、廿、五、六、歳、あ、つ、ん、と、あ、つ、  
 志、丸、男、子、袴、の、衣、衣、の、裾、短、あ、つ、を、袂、く、腰、中、ハ、一、口、の、短、刀、を、帶、ひ、あ、つ、

二本の卯花小阿伽桶を命をそそぐ。件の墓の邊に才の義邦を見ん。又見たり。その墓に水成は死花成る向て跪死合掌。念果く身を起し又これを見る。長邦も亦不審さふ立由る去る。この男子を見ん。まはあはひひうひてや。進よりて小腰を折め率介のひども。めん力も。蒲殿のめん子とゆええ。吉見冠者小在とや。と同まて長邦胸お騒げと隠してふあ。るあんとあひうえ。と世元と笑。これ則義邦あり。抑和殿ハ何人ぞ。同えされ。忙しく身を轉しく額をつれ陪臣の子でいハ及びせ。あふふい。某ハ梓治部丞有友が家隸馬標標太が一子小同苗標吉郎とゆれ。め故主てい治部丞へ去ぬ。建久四年の秋濱の宿の館あり。討兵を柱陣殺せ。と親めて馬養標太も乱軍の中お移り。そのと見某十五歳又の教訓已て代る。母お

俱しく後門より逃れ。その駒形の麓の郷土田九郡内が女房ハ母が妹といへ。鮎て陸奥小落。親子田丸小身を寓。年才成経くゆえ。る小母ハその次の年持病の血積より誥。とあつたり。この月。今日が亡日あり。このと見某廿歳小足。とち続。親を喪ひ。叔母叔母夫をよ。渡世のつと相譚。郡内小子。則叔母の養子。せ。この地小駐。又駒形の一村ハ泰衡國徳成亡の後漸く凋蔽。今ハ家數四五軒小過。これより養父が所徳も。年々小衰果て。初。これ去歳の九月下旬。黄泉の客とあり。今でハ養母と某の。所帯の山の本を伐。或ハ獸を獵。りて。生活。と。ひあり。と。鳴呼。と。人。疑。を。釋。が。び。か。く。近。属。世。の。凡。聞。小。蒲。殿。の。めん。子。白。鳩。丸。ハ。下。野。圃。足。利。と。く。

人となり吉見の冠者義邦と名告せり。あつたあれども道遠けし。つ  
 ちろつちろつちひらひら訪ひなむ。とて。今見ゆあり。あり。彼君のあつた  
 やと。つちろつちろつちの試。平介。物のひらけ。を。憚る。氣を。言下。ふ。名  
 の。生。つちろつちろつち。を。併。古。主。梓。殿。及。亡。父。母。の。道。守。る。致。多。く。実。母。の。松。月。の。ま  
 いか。生活。小。暇。あり。た。平日。より。ほく。詰。む。不。慮。の。見。糸。入。り。の。か。ん  
 いと。致。く。ゆ。と。あ。そ。つ。く。や。ま。も。ふ。あ。ん。義。邦。頻。々。感。嘆。く。樵。の。伐。株。小。屍。を  
 け。原。来。ハ。汝。ハ。梓。が。老。黨。標。太。と。や。ん。が。子。あり。致。く。と。邊。境。小。呻。吟  
 へ。ハ。舊。縁。の。人。と。邂逅。く。大。き。き。を。と。ち。う。づ。つ。たり。そ。も。又。汝。ハ。い。つ。め。く。  
 され。を。義。邦。と。知。ら。ざ。と。回。れ。く。標。吉。声。を。低。め。君。志。ろ。一。召。れ。と。や。  
 追捕。の。沙。汰。嚴。密。う。く。奥。六。郡。の。い。は。さ。り。あり。住。む。人。稀。あり。山。里。ま。ど。  
 經。任。一。味。の。反。逆。人。吉。見。冠。者。義。邦。と。等。類。某。甲。某。乙。と。四。人。乃。姓

名を識し。骨相書。其。由。ん。と。ろ。君。が。面。影。彼。骨。相。書。小。似。せ  
 ろ。の。と。あ。そ。つ。く。治。部。丞。が。ぬ。よ。建。立。す。宰。都。婆。女。小。さ。ろ。あ。る。と。げ。ゆ。て。去。る。の  
 た。ま。へ。為。体。の。誣。く。つ。ひ。一。が。舊。恩。舊。義。の。竭。ぎ。呀。致。他。人。と  
 如此。見。ん。が。危。た。る。の。み。ゆ。ら。ざ。や。と。真。成。に。密。語。ハ。義。邦。他。の。く。ち。致。り  
 原。来。奥。の。盡。知。や。ぞ。も。こ。ろ。人。隠。と。あ。る。と。り。現。と。の。盤。井。の。一。郡。を。經  
 任。が。角。龍。る。平。泉。の。柵。小。遠。く。と。こ。一。点。も。逆。意。や。然。り。を。修。羅。五  
 郎。經。任。が。一。味。と。黨。と。せ。る。と。こ。み。か。は。誣。者。の。誣。罔。あれ。ども。一。朝  
 中。説。盡。か。つ。汝。故。主。の。恩。義。を。忘。れ。を。有。友。が。み。ふ。七。回。の。追。薦。を  
 む。せ。し。る。の。志。極。く。よう。と。こ。六。け。の。叔。父。判。官。の。墓。小。指。く。この。丸。小。丸。く  
 日。八。傾。れ。ぬ。宿。を。こ。ん。と。寺。内。小。入。り。く。呼。門。の。志。せ。と。法。師。ハ。背。門。小。ん  
 と。と。ひ。く。墓。所。を。過。ら。ん。と。つ。つ。と。この。寺。伽。藍。の。名。残。あり。へ。あ。ど。て。か。く。と。で



勤めつ。只のりまでも。宿小潜せぬ人。と代るも。あはれ。歎待。す。あはれ。似。さ。り  
 けり。さて。その。夜。さ。り。後。邦。ハ。刀。野。時。夏。小。濡。衣。を。被。せ。れ。寃。屈。は。又。ぞ。あ。は。れ  
 へ。ひ。て。足。利。を。走。り。し。廣。光。井。平。美。未。乃。う。人。さ。ん。あ。ち。も。あ。く。告。る。人。ハ。標  
 吉。頻。小。驚。馬。噴。し。養。母。黒。菽。共。侶。小。時。夏。を。悪。く。憤。り。又。廣。光。ホ。二。人。が  
 往。方。の。ふ。と。想。像。の。ま。り。縁。由。を。せ。り。し。う。美。邦。の。薄。命。を。よ。く。痛。み  
 く。ぞ。思。ひ。ける。あ。は。れ。親。子。が。滅。心。は。美。邦。ハ。稍。あ。ろ。ち。あ。く。吉。見。を。逐。電  
 走。る。夜。上。り。俵。は。六。十。餘。日。今。宵。な。ご。め。枕。を。中。と。く。寝。小。就。多。あ。ろ  
 へ。却。規。標。吉。ハ。聊。思。慮。あ。る。め。り。け。し。ば。訪。入。稀。あ。る。山。里。あ。り。し。く  
 一。点。も。油。お。せ。し。と。その。次。の。日。上。り。美。邦。を。奥。ま。く。潜。せ。し。く。その。乃。ハ。さ。ら。ぬ  
 容。よ。う。く。山。掙。小。合。心。し。と。あ。り。さ。る。猶。小。夏。ハ。過。死。山。里。小。衣。う。ん。秋。の。夜。長。死  
 比。小。あ。り。し。と。六。部。語。小。人。の。聚。語。も。七。十。五。日。と。定。め。る。も。所。以。あ。る。か。美

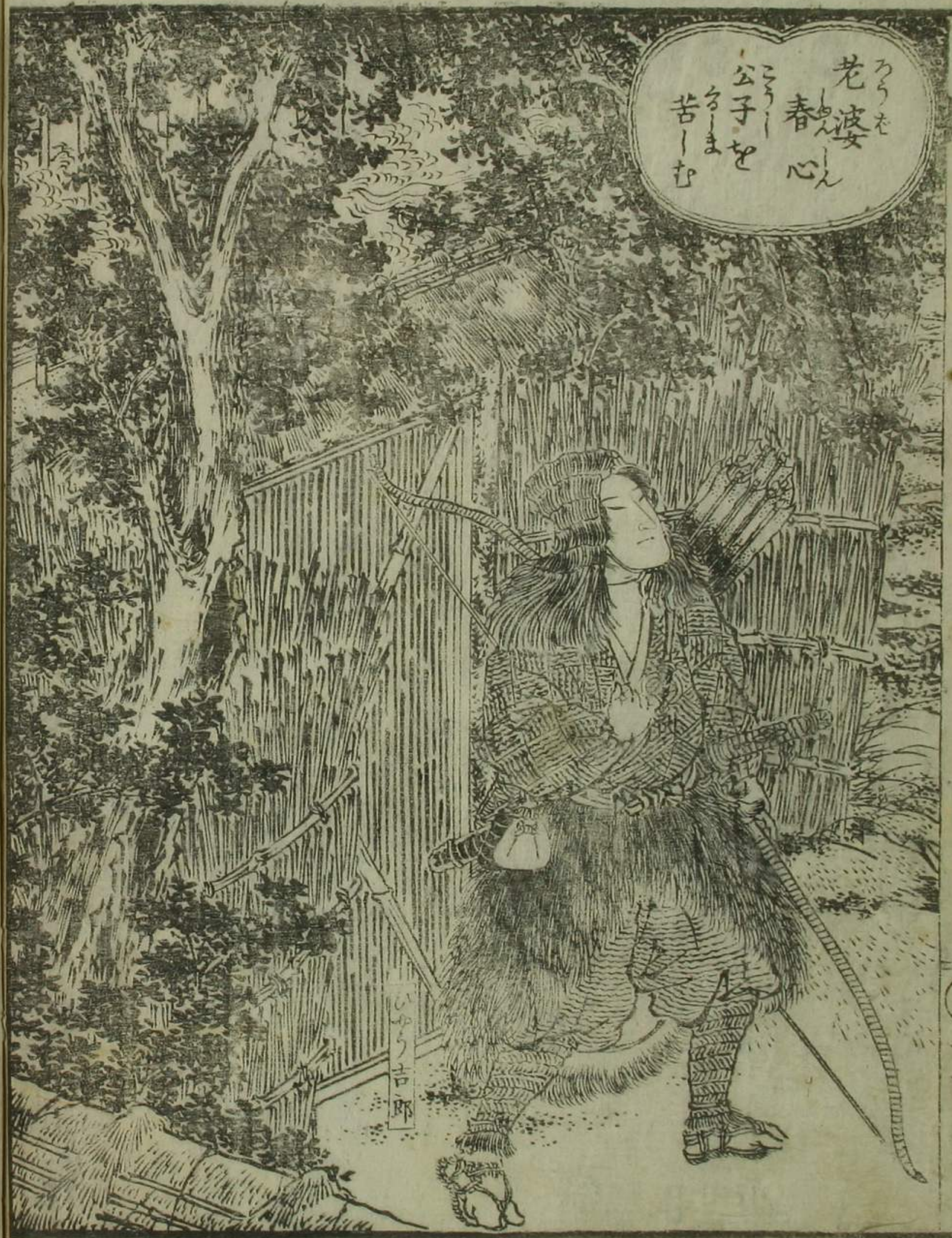
邦。追。捕。の。風。声。も。遂。小。覚。え。む。と。あ。り。け。し。く。標。吉。ハ。黒。菽。と。高。單。吉。見。殺。の  
 け。し。し。窮。屈。小。見。え。ぬ。今。ハ。人。目。を。ま。の。ぶ。も。要。ふ。し。渠。ハ。推。と。人。同。心。  
 鎌。倉。に。送。り。し。る。標。吉。が。才。え。し。も。後。才。え。し。も。以。暗。め。ん。今。ハ。怪。む。此。の。ト  
 と。く。美。邦。小。由。を。告。ぐ。あ。ろ。く。小。憚。ら。し。と。假。深。小。名。を。咄。ま。し。く。黒。菽。叔  
 母。の。ど。く。標。吉。ハ。兄。の。如。く。物。の。い。ひ。さ。る。を。改。む。美。邦。亦。あ。り。親。子。小。人。目  
 ば。り。ハ。使。れ。り。抑。件。の。黒。菽。ハ。原。ハ。和。歌。鶴。と。咄。ま。し。る。大。磯。の。遊。行。女  
 あり。その。故。ハ。武。士。の。妻。あ。る。ふ。あ。ろ。く。妹。ハ。河。竹。の。流。れ。ユ。ユ。と。流。す。小  
 黒。菽。ハ。年。十。六。の。と。死。密。夫。小。誘。引。か。さ。し。果。ハ。拉。女。小。售。連。ら。ま。し。く。夫。ハ。往。方  
 志。ま。し。と。あ。り。ぬ。思。菽。ハ。二。親。ハ。こ。れ。より。先。小。世。を。さ。り。し。物。あ。り。の。慚。積。り。て  
 年。才。安。否。を。問。も。せ。し。と。問。せ。し。と。過。る。後。小。奥。の。般。石。井。を。駒。形。村。の  
 郷。士。田。丸。郡。内。有。一。年。鎌。倉。小。出。府。し。と。返。留。の。間。こ。の。和。歌。鶴。小。う。く。馴





送りつゝ居あがひてふ愛くしこのハハと申して堪らざるを既に夜寒よりあり  
 標吉ハ毎夜又獸を獵んとく曉くさそハスリ牙を黒枝ハ折しとけれと  
 目回小物をいせし情郎ハ見えざるをあかぬやと敲たき北月のくま立  
 ちころ。袂を掖たつて紙觸れくささるるのぞきりける長邦ハ黒枝が為  
 体ハ未果腹たたくあかきとも乳をいり頭さきいり時をぬちりして  
 八歳色情多れあざざれどそのふゆいと銚に苗小野三晩指あつて  
 まあまの人小酒あくハいさで情を惹とあえんと竊は準備し今宵も子  
 標吉ハ弓箭を携てかへ黒枝ハ酒を盪有をめしく長邦のほりふ  
 按排かろ山家不際限もあ世を潜せめめうあん乳も鬱結れあかざり  
 一度過しく御寝あき用意しくけつとあ人の底意ハあね推辞へれ

よりのあけまふ長邦ハ勸らる不盃を短く受飲盡く措めハ黒枝ハ浅黒  
 額の皺をもちよせ共然とち笑とくそのあん盃あつてんといわうとや  
 たり揚ぐち戴た独酌ハ盃盞かきて長邦ハ進まれども半盃も受む  
 困ド果ててさうける黒枝ハ只酒の勢を借らんとあかハ長邦ハこの  
 酔ひを引受くと喫程小顔の黒は紅色と帯く柿紅をの如光澤あつ  
 蟀各々張の助しりも目を糸みく長邦を折るるのやうさ嘔吐のう  
 げん心持ハさきど長邦ハこれをも忍びく今宵ハ小至心あり許し入るかと  
 起し臥房へ入るを黒枝ハあか目送りく盃盤をとり納め躑かか  
 行燈を引提くものが臥房へ入りぬ且く黒枝が頻々嘔吐苦む言を長  
 邦枕を歌てあか老女ハ酒飲過して吐を反くあか飲さるる食傷  
 せしめあべ憎しとあかどうちの措きと躑て臥房を起き納む紙門と



老波 春心  
公子を  
苦しま

推ひたる苦痛の声のやわればむりもあつていふも成るやあつていふ心地は何と  
 ぬと向まじく黒萩声たえくふうち臥せしよと多むむぢ病が世渡りさく堪  
 ぐ願ふこの鳩尾を押すくえとのひあへど頻々喘死く已ざれば後  
 邦辞さるふよもあくほちまよつていぬくその胃腸(堂)は推當く苦  
 痛のあらはれぬ軟と同れく黒萩娛しげふのち猶廻り下ふたりあつて  
 軟あつてわがやあふたりとて成合せて抱え上せんたりとけいふ後邦  
 怒の堪ざりも。巻引く黒萩が頭破と打あがらせ恥をさうごつる老女  
 ろあ邦そのあつめのとつひとく調戲さるる。この狂人の海はるるべし  
 の向後と慎む標吉小信と告るる年ぬ愧よくと罵く席を蹴立て  
 出るハ黒萩ハ消ぬるむらふ打とく雲時りのものらまど起るり。うち  
 俯し西ふ願抱る。その苦痛半晌むら。かやこれふらうら指を

りて眼を拍るふ頃日揺動し糸切歯板歯一枚脱ぎさり。あつ悲しやと  
 吐出し堂に受載く惜めどもその甲斐あり腹くくあ小胃ハ只浅間獄と燃  
 まども富士の煙の靡ぬ人今とく怨ハ復これぞ落魄人を扶持まじく損  
 ありと得かしと昔も今もいふあつて況や反逆野心の後木を伐り草を刈  
 拂ひて索らるる罪人を舎藏めこの廣い世界ふ二人とよもあつて。その大  
 恩をさるひらまきく尻暖ゆる隨小高慢里親のゆまをん兒女ふも成抗打が  
 ふかたう恩をさる人てふ。情あ郎竟あつていふせんぬのをと泣つて怨の  
 潜音ふ通宵むり吟死るり。是より先は後邦ハ臥房にまわりあつてもさう  
 ちあつて睡らまきつくとさへえせむ。これ一旦の奴ふ乗しく黒萩こ巻し  
 と短慮との人もあつていふ。や彼老淫婦を礼ある所ふらへばこ  
 くれ隨と何らあえ婦人の性ハ僻て妬めり。そのあつて打懲まじくもいふ

非義を改む。死骨髄ふ徹るやぐ。これを怨バひ。ハせん。されバ。この  
 量を遣らん。り。其を非と。使ふ。不良の。と。非。渡。せん。致。これ。亦  
 量り。ぬ。れ。バ。ア。ト。標。吉。の。告。ご。ゆ。や。ま。さ。る。を。告。ご。う。く。嫌。忌。の家。よ。  
 あ。ん。の。の。よ。く。難。う。これ。この。知。を。立。去。る。と。も。を。ば。り。の。あ。ふ。あ。と。松。と。  
 の。ふ。せん。廣。光。井。平。が。存。亡。定。り。ぬ。と。又。朝。夷。が。在。知。を。さ。さ。ご。今。この  
 一。僕。而。友。あ。と。で。孰。う。吾。儕。を。容。る。の。あ。ん。や。進。退。更。は。究。り。ぬ。ア。ア。あ。た  
 恨。ま。さ。け。り。と。百。遍。悔。ひ。千。遍。悔。と。も。よ。ふ。せん。と。ん。ば。あ。り。り。果。せ。る。を。黒  
 萩。が。非。義。の。怨。ハ。釋。ま。う。く。又。後。邦。を。老。く。せ。り。その。一。條。の。物。語。ハ。再。へ。よ  
 第。三。卷。不。解。分。る。を。コ。を。て。ま。う。ん。

朝夷巡嶋記全傳第三編卷之二 終

